

2023 年度
教育学会教員連絡会（夏）



期日：2023 年 8 月 2 日

時間：12:30～

場所：板橋キャンパス 30101 教室

大東文化大学文学部教育学科教育学会

目次

○2023 年度教員連絡会(夏)プログラム

○教育学会運営委員会

- ・ 総会、春季定例会報告
- ・ 議長団総会報告
- ・ 2023 年度教育学会予算（確定版）
- ・ 秋季定例会計画
- ・ ゼミ説明会計画
- ・ 各団体の予算管理について

○教育学科創立 50 周年記念企画実行委員会

○教育学会後援団体

- ・ 後援団体 球技
- ・ 後援団体 大合宿
- ・ 後援団体 コンサート

2023 年度教員連絡会(夏)プログラム

0. 教員代表挨拶
1. 教育学会運営委員会活動報告
 - ① 2023 年度総会
 - ② 2023 年度春季定例会
2. 教育学会運営委員会活動計画
 - ① 2023 年度秋季定例会
 - ② ゼミ説明会
3. 会計 予算管理について
4. 教育学科創立 50 周年記念企画実行委員会活動計画
5. 後援団体活動計画
 - ① 後援団体 球技
 - ② 後援団体 大合宿
 - ③ 後援団体 コンサート
6. おわりに

令和5年度 教育学会運営委員会 活動報告

2023年8月2日

報告者：運営委員会委員長 古畑歳景

春季定例会統括 種田貴志

【アウトライン】

- ①教育学会総会 活動報告
- ②春季定例会 活動報告

【①教育学会総会について】

1. 出席者数

出席者数 234名 委任状 81名 計 315名/499名

2. 委員会内で出た反省点

《総会運営に関する内容》

①公欠届の取り扱いについて

[事例]

- ・遅刻や早退者に対して公欠届の受け渡しの判断が難しかった。
- ・後援団体の方に対して無条件で配布するという問題があった。

[対策]

- ・BINDnoteやDBポータルを使用し、時間割を総会出席者全員に必ず提示してもらう。
- ・遅刻者、途中退出者などには必ず受付に学生証を預けてもらう。

②議題に関しての賛成者・反対者の挙手の数を数える委員の動きについて

[事例]

- ・人数が明らかに合わず、再度挙手していただく事態になった。
- ・委員の準備が整っておらず、数えることに時間がかかってしまった。

[対策]

- ・委員内で数える担当の席場所のすり合わせを入念に行い、数え場所の被りが起こらないようにする。
- ・人数を数えるタイミングを委員内で適宜共有し、すぐに取り掛かれるよう仕事の準備を

整えておく。

③休憩時の受付対応について

[事例]

・休憩の際に一気に人が流れ込んだことで、途中退出者に対する学生証提示案内など受付の負担が大きくなってしまった。

[対策]

- ・休憩のタイミングを受付に共有し、準備を整えておく。
- ・学生証提示の案内を休憩前にしっかりと行う。

3. 総会事後アンケートより頂いた意見・ご要望

【肯定的な感想】

- ・先輩方の用意周到な準備により円滑に進んだと思う。
- ・時間はおしてしまったが、去年の総会よりも進行がスムーズでとても良かった。

【意見・要望】

①時間関係

- ・食堂が閉まってしまうので、時間が長引いてしまうのは困る。
- ・9時開始予定でしたが、実際は20分ほど遅れて始まった。人数確認とのことだったが、次回は予定時刻に始められるように対策をしていただきたい。

[対策]

→総会運営を円滑に進めていけるよう委員内で対策を考え実行する。

対策例：・タイムスケジュールを適宜確認し、その予定時間通りに開始できるようどこかで区切りをつけるなど、しっかりと切り替えながら進める

- ・事前に議案書を読んでもらい、決議までの時間を短くする
- ・仕事の効率化→人数を数える際の担当割り振り(この事例に関しては後述)など事前シミュレーションを通して委員の仕事をしっかりと把握し、適宜連絡を取り合い、円滑に仕事を進めていけるよう準備を整える

②環境関係

- ・マイクの調整をリハーサルなどを行って確認してほしい。

[対策]

委員内でリハーサルを入念に行う。音響に関しては本番の大人数の中でも聞こえやすいよ

う調整を行い、事前シミュレーションを行う。

- ・会場の椅子が長時間の会議に適するものではないため、次回このような会があるときは別の教室を借りて実施してほしい。

[対策]

基本的に 60 周年記念講堂で総会を開催するため、現状不可能。

→休憩の時間を設けるなどして、参加者の負担を軽減する。もしくは、クッションの持参などを認める。

③決議関係

- ・決議に関して、議長が過半数を超えていると容易に判断できる場合、集計作業は必要ないのではないか。

[対策]

公的な決議をする機関で、総会決議での記録に残すため集計作業は必須。

- ・資料は事前に目を通してきて総会は質疑応答と採決だけで良かったのではないか。

[対策]

→教育学会活動に関する公的な決議をする機関であるため、議案書に関しては学会員に対して総会中に案の共有を行うべきである。

また、参加者全員が事前に目を通してくるとは到底考えられないため、仮に採決のみとした場合、学会員が考慮なく決議してしまう可能性がある。

問題の主軸が長時間化してしまうことにあると考えられるため、前年度の報告に関しては全文を読む必要はない。→要検討

4. 総会全体に関する反省・次回に向けて

去年に比べて円滑に進めることはできたが、時間の延長や運営上の欠陥が見られる部分が多かった。見立てとしては運営側の動き方の悪さや決議までの時間の長さなどが挙げられる。今後の対策としては事前のリハーサルを入念に行って動き方の共有をしたり、当日も委員内で密に連絡を取り合いながら効率よく行動できるよう意識する。決議の方法は再度委員内で話し合っって削っていい部分とそのままで良い部分の線引きを行い、円滑に進めていけるような総会運営に活かしていく。

【②春季定例会について】

1. 開催目的 運営委員会が設定するテーマについて学会員全体で考える場を設け、多様な視点を自己に取り入れるとともに、他学年を含めた多くの学会員と交流を図る。

2. テーマ 「伝わる『話し方』をマスターしよう！」

3. 開催日時 令和5年5月11日(木) 14時15分～16時00分

4. 開催場所 大東文化大学東松山キャンパス 60周年記念講堂

5. 参加人数 235名（来場者アンケートより）

※参加学生数クラス内訳

6. 運営体制 教育学会運営委員会 2年生11名
 実行委員長 種田 貴志（2E）
 副委員長 發知 里世音（2A）
 副委員長 富田 実乃梨（2D）

	A	B	C	D	E	F	学年計
1年	22	33	24	26	16	12	133
2年	14	12	8	10	6	1	51
3年	1	4	3	9	5	3	26
4年	8	3	3	1	4	6	25

7. 当日の内容および振り返り

プログラム	内容および振り返り
①開会宣言・実行委員長挨拶	テーマ設定の背景、概要を説明。
②アイスブレイク 「はあっというゲーム」	班内の自己紹介に加え、提示したお題に書かれた様々な表現を演じてそれを当ててもらおうことを目指すコミュニケーションゲームを実施。
③話し方・聞き方のテクニック紹介	運営委員が調べたテクニック（話し方6つ・聞き方2つ）を紹介。演劇などを交えながら、分かりやすく説明することができた。
④アクティビティ 「コトバを操れ！営業マンゲーム」	身近な物の魅力を伝え、相手に買ってもらえるよう説得するアクティビティを実施。様々な着眼点や表現の仕方があることを認識させた。
⑤アクティビティ「心をつかんで自分を伝えろ！好印象アピールタイム」	前半で説明した話し方・聞き方のテクニックを意識しながら、再度自己紹介を実施。その場で改善を体感できたことが満足度に繋がった。
⑥まとめ・感想共有	質問受付 Web サービス「LiveQ」を用いて、参加者の感想をリアルタイムで共有し、全体の振り返りを実施。
⑦閉会宣言	最終盤で「はあっというゲーム」に関連したクイズを出題し、回答を運営委員会公式 Instagram に掲載。来場者アンケートの回答依頼、ルーレットを用いたクラスごと規制退場を実施。



全体の様子



アクティビティの様子



立て看板・運営委員

8. 獲得目標と到達度評価（参加者アンケートの集計結果より）

獲得目標(1) ◎達成			獲得目標(2) ◎達成			獲得目標(3) ◎達成		
答えのない問いに対する個人の考え・視点を持ってもらい、学びの楽しさを感じてもらおう。			学年を越えた繋がりのもとで、多様な考え方に触れ、学びを深めてもらう。			定例会自体を楽しいものと認識してもらい、今後の学科行事に対する意識改革を行う。		
○企画全体の満足度			○リアルタイムコメント欄の評価			○次回も参加したいと思うか		
満足	183 件	77.9%	とても良い	124 件	52.8%	とてもそう思う	119 件	50.6%
やや満足	33 件	14.0%	良い	65 件	27.7%	そう思う	78 件	33.2%
やや不満	18 件	7.7%	普通	43 件	18.3%	普通	31 件	13.2%
不満	1 件	0.4%	あまり良くない	2 件	0.9%	あまり思わない	2 件	0.9%
			良くない	1 件	0.4%	思わない	5 件	2.1%
<p>全体的に満足度が高かった。参加者を飽きさせない工夫を盛り込んだ結果「司会進行がスムーズで、飽きることなく参加できた」との意見をいただけた。</p> <p>不満・やや不満と答えた方からは、「もっと多くの人と話したかった」「定番のテクニックではなく、心構えやメンタリティを紹介・議論したほうが良いのではないか」といった意見があがった。</p>			<p>所属クラスごとに座席を指定したため、学年を越えた交流を促すことができた。また、参加者の感想をリアルタイムで確認できるようにしたことで、休憩時間を用いてコメントをピックアップし、後半のスライドに反映させることができ、参加学生とともに定例会を作り上げることができた。初めての取り組みだったが、次回以降も継続して活用していきたい。</p>			<p>参加者の半数以上から、次回も参加したいとの回答をいただくことができた。また、運営委員会の公式Instagramを紹介できたため、日々の活動や今後の学科行事の周知に活用していきたい。また、次回定例会のテーマアイデアを募集したところ、人間関係やコミュニケーション力の高め方について知りたいとの要望があり、定例会の需要と期待を再認識することができた。</p>		

9. 次年度以降の活動に向けて

今年度の反省点や改善案を1年生に引き継ぎ、より満足度の高い春季定例会を開催できるよう努めたい。

2023 年 8 月 2 日
報告者 議長 小林 巧

2023 年 5 月 11 日に行われた教育学科総会に議長として参加し、ここに反省点と改善案を提出し、以下の通り報告いたします。

記

【反省点】

・当日までの準備について

周年実行委員会の引継ぎが間に合っておらず、そのこともあってか、資料作りなどの準備のほぼすべてが急ピッチで進められており粗が非常に目立っていた。学生への配布資料が事前に配られていない、総会の進行用資料が当日の朝に配られ、尚且つその訂正・読み合わせが開始 3 分前まで終わっていない、進行の流れを把握している人が全体の中で少なすぎるなどが具体例として挙げられる。

・シナリオの改善

上記で述べた進行用資料の読み合わせにもかかわってくることだが、前年度のシナリオを変更して持ってくるのは良いが、結局当日赤を入れるのでは、前年度のデータ上で修正されることはなく、毎年同じミス、赤入れを繰り返すことになるのではないだろうか。シナリオの読み合わせを委員会で行い、確認するべきだと考える。前年度の総括の反省点にも記載されているので再度確認してほしい。

・情報共有、伝達について

前年度総括の資料が総会終了後に出てくるというのはいかなるものかと苦言を呈したい。なんのために総括させているのかわからない。また、委員会組織の引継ぎが終わっていないことを知らないというのも意味が分からない。「知らなかった」で済む話ではないし、そもそも報告を求めていることがおかしい。情報の共有は逐一行っていくべきだと思います。

【改善案】

全てにおいて言えることとして、「引継ぎをおこなう」。これだけでかなりの仕事が楽になると思います。引き継ぐというのは、やりっぱなしで後輩に押し付けるということではなく、次に自分がやるとして、不自由ない状態で渡すというのが鉄則だと思います。教員の皆様にも意見をいただいたりしながら、来年度の教育学科総会に向けて資料の型を作っておくといいと思います。また、前年度、前々年度の反省を総会前に全体で確認することも大事だと思います。

【最後に】

前年度に比べて、回答がしっかりしていたなと感じます。ある程度質問について予測が出来ていた証拠なのかなと思いました。ひとつ気になった点として、大合宿の質疑応答があります。大合宿 OB からの質問のみで質疑応答が終わったと記憶していますが、

「何となく質問が出たから良いか」みたいな雰囲気があったのでとても残念に感じました。大合宿側からの「多く質問が出そうだから」という配慮かもしれませんが、これだけの大きな予算を動かしているという自覚が教育学科全体にあるのかはわからないなと思いました。教育総会とはどんな場なのか全体で振り返ってほしいなと思います。

最後になりますが、運営委員会の皆さんお疲れ様でした。総会の運営、準備とは別に自身の大学生活もあり大変な仕事だったと思います。まとまった時間が取れないというのもわかりますので、せめて、データ上での完璧な引継ぎを頑張ってほしいなと思います。また、これを「総会前に」読んでいる、2024年度総会に参加する議長団、運営委員会の皆さん、頑張ってください。

以上

2023 年 8 月 2 日
報告者 副議長 成 歩栞

2023 年 5 月 11 日に行われた教育学会総会の副議長として参加し、ここに反省点と改善策を提出し、以下の通りご報告いたします。

記

【反省点】

- ・総会が規定の時間内に終わらなかったこと。
- ・総会マニュアルを読み合わせることが出来ず、議長と進行する上で認識が相違している場面があったこと。
- ・総会が始まってから総会マニュアルの副議長分が配布され訂正事項の確認に時間を要したこと。
- ・本議事録の作成も含めて、連絡が期日のギリギリであったこと。

【良かった点】

- ・前年度と比較して、学生からの声が多く出たこと

【原因】

- ・公欠の時間帯は確定していて、融通が利かないことを理解していなかった。
- ・前年度の総括、反省を議長副議長に伝えていなかった。
- ・総会マニュアルの細かな訂正事項が多い。（人の名前や当日の議題の進行順は早めに確定させ間違いがないようにする。）
- ・総会マニュアルの言葉遣いは以前の使いまわし(と予測)により台本の確認不足。

【改善策】

- ・昨年度の総括を議長副議長にも共有し、同様の反省が生じないようにする。
- ・前日までにその時点で出来ている総会マニュアルを議長副議長に渡す。
- ・当日の集合時間や持ち物、服装等を早い段階で周知する。
- ・総会マニュアルを総会 1 週間前には議長副議長共に台本確認すること。
- ・来年度に備え、総会マニュアルの台本の言葉遣い、ミスを改めて見直し修正すること。

以上

2023年度 教育学会予算書
2023年4月1日～2024年3月31日

(単位：円)

科目	備考	今年度予算	前年度予算	前年度決算
〈収入の部〉				
会費収入				
1年生学会費	7,000円×133名	931,000	791,000	791,000
編入生学会費	7,000円×3名	21,000	7,000	7,000
大学院1年生学会費	7,000円×4名	28,000	21,000	21,000
繰越金				
前年度繰越金		4,538,000	4,753,578	4,753,578
雑収入				
利息		100	100	
収入合計		5,518,100	5,572,655	5,572,655
〈支出の部〉				
教育学会運営委員会		716,940	906,048	321,260
教育学会総会		11,000	11,000	7,500
郵送代		5,000	5,000	0
花束代	1,500×4	6,000	6,000	7,500
春季定例会		15,000	15,000	6,195
企画費		15,000	15,000	6,195
秋季定例会		27,500	27,000	17,199
企画費		20,000	20,000	10,712
花束代	講師への花束代	3,500	3,000	3,410
弁当代	講師への弁当代	1,000	1,000	820
お茶菓子代	講師へのお茶菓子代	3,000	3,000	2,257
ゼミ説明会交通費	最寄り駅～高坂駅間1人往復2,000円と仮定 往復2,000円×16ゼミナール×2人	64,000	64,000	0
公開ゼミ補助費	20,000円×3ゼミナール	60,000	150,000	20,000
公開ゼミ予備費		20,000		20,000
教育学会誌		390,000	440,000	231,094
製作費		300,000	300,000	209,440
編集費		50,000	100,000	20,944
郵送代		40,000	40,000	0
印刷費	総会資料などデジタル化した場合は一部不要	30,000	37,380	24,054
会議交通費	会議交通費 東武練馬駅～高坂駅 1068(往復金額)×16回 17,088×5人	85,440		
記録用DVD		1,000	1,000	0
アルコール消毒液	板橋校舎教育学科研究スペースに設置するアルコール消毒液	3,000	3,000	0
雑費		10,000	10,000	12,600
後援団体		1,181,000	1,295,950	507,968
後援団体大合宿	別紙参照	681,300	573,100	369,977
後援団体球技	別紙参照	161,400	439,750	72,063
後援団体コンサート	別紙参照	188,300	133,100	65,928
後援団体予備費	50,000円×3団体	150,000	150,000	0
大学院生		168,000	161,000	0
未還元学会費		140,000	140,000	0
研究支援費	7,000円×4名	28,000	21,000	0
学会費返金		30,000	30,000	17,620
返金		30,000	30,000	30,000
教育学会創設50周年企画		1,240,791	1,688,680	187,807
支出合計		3,336,731	4,081,678	1,034,655
本年度収支差額		2,181,369	1,491,000	

次年度繰越金		2,181,369
--------	--	-----------

令和5年度 教育学会運営委員会 活動計画

2023年8月2日

報告者：秋季定例会 統括 古畑歳景
ゼミ説明会 統括 和田竜

【アウトライン】

- ①秋季定例会 活動計画
- ②ゼミ説明会 活動計画

【①秋季定例会について】

1. 開催日時

10月17日(火) 9時30分～11時30分(予定)

2. テーマ

教育虐待 ～教育虐待が壊した子どもの「心」～

[テーマ内容詳細](予定)

①教育虐待の概要

→教育虐待とは何か、昔と今の教育観の変化、教育虐待をするきっかけ、実体験の事例紹介など

②教育虐待のライン

→どこからが教育虐待なのか、教育虐待としつけの違い、教育虐待と教育熱心の違い、教育虐待を受けたことによる将来への影響

③教育虐待への対応・向き合い方

→教育虐待をしないために、教育虐待を受けている子どもがいる場合の対応(先生・親目線)

[目標]

- ・子どもたちが学ぶ意義や目的、方法を学び、教育・教育者の在り方を考えるきっかけを作ることができる。
- ・子どもたちが安心して学べるような教育環境を作るための知識を得ることができる。
- ・教師、親目線の両面から教育方法を学び、教師になる人とならない人関係なく全学会員

が学びを深めることができる。

3. 開催場所

大東文化大学東松山校舎 60 周年記念講堂(予定)

4. 講師

武田信子 様 一般社団法人ジェイス代表理事

【②ゼミ説明会について】

1. 開催日時

10 月 2 日(月) 13 時 00 分～14 時 45 分

2. 開催場所

板橋キャンパス 1 号館 多目的ホール

3. 開催目的

ゼミ説明会自体は教員主催のものがあるため、教員の視点ではなく学生目線から見た各ゼミの様子や実態を伝える役割を担う。ゼミ説明会を通して、各ゼミの雰囲気を知ってもらうことが目的である。

4. 開催経緯

[対面開催経緯]

前年度の担当者によれば、新型コロナや準備期間の関係でオンラインでの開催となった。ゼミ説明会の周知自体が上手く行っていなかったこともあるが、対面からオンライン開催になったことが参加人数の大幅な減少に繋がった。そのため、今年度は対面での開催を予定している。

[開催場所について]

学会の予算として、ゼミ説明会の交通費が計上されているように、コロナ禍前までは東松山キャンパスでの開催であった。しかしコロナ禍で本行事のノウハウが失われてしまい、改めて主催するにあたり、ゼミ側の学生と参加者の負担軽減を目的として板橋キャンパスでの開催にいたった。ゼミ見学会の後に開催することで、ゼミに対して興味を持ったところでの開催となり、参加者の数も多くなると予想される。

令和5年度 教育学会予算管理について報告

2023年8月2日

報告者：運営委員会3年 会計 和田竜

【アウトライン】

- ①学会の予算管理について
- ②団体口座開設について

【①学会の予算管理について】

1. 現状報告

教育学会の予算管理は、基本的に運営委員会の会計担当に一任されており、運営委員会の会計担当から後援団体や50周年記念委員の会計担当に予算を渡す方式となっている。運営委員会は学会の口座で予算の管理を行っているが、他の任意団体に関しては予算を渡した後の管理方法に指定がない。運営委員会としては、各団体の決算、会計監査で予算管理の把握を行っている。このような方式を取っていた結果、昨年度の50周年委員会の予算管理で、150万近い予算を会計担当の自宅で保管する、管理場所が不明といった事態が発生した。

また予算を渡す段階でも、運営委員会の会計から、数十万の予算を手渡しで各後援団体の会計に渡すというのが常態化している。各後援団体の会計担当者は、個人口座で受け取った予算を管理しているとみられる。

2. 問題点

- ・運営委員会の会計が学会の予算について把握しきれていないこと。
- ・学会の予算を手渡ししていることで、一定のリスクが生じていること。

3. 改善案

これらの問題点に関して、口座間でのやり取りを推奨すべきではないかと考えている。口座間でのやり取りであれば、手渡しにおけるリスク低減だけでなく、保管されている口座の把握も可能となる。ただし、学会の口座が【ゆうちょ銀行】にあるため、他の銀行とのやり取りの際に手数料が発生してしまう。1年に各団体2回の手数料が必要となるため、来年度の総会で予算計上の際に手数料を含める必要がある。

【②団体口座の開設について】

1. 団体口座開設の提案

上記の改善案に関しては、あくまで個人口座での管理を前提としている。運営委員会としては、団体口座の開設を検討した。

2. 団体口座開設の問題点

団体口座開設するにあたって、各団体に会則が必要になる。学会の任意団体であるため、学会則を利用できるのではないかと考えていたが、銀行に確認したところ、新たに各団体会則を作らねば厳しいとのことだった。

加えて団体口座開設には、各団体の銀行印が必要となるため、その予算を新たに計上、もしくは雑費から捻出しなければならない。

令和5年度 50周年企画実行委員会 活動報告・計画

2023年8月2日

報告者：50周年企画実行委員会 統括 古畑歳景

【アウトライン】

- ①活動内容の現状
- ②今後の活動計画

【①活動内容の現状】

※本来は2022年度に行う予定であったが、コロナ禍で活動が困難であったこと、前の委員内での会議がほとんど行われておらず活動が進まなかったことから2023年度に活動が持ち越されている。現在は委員メンバーも新しく追加され、新体制で活動を進めている。

1. 水筒について

《概要》

50周年記念品の1つとして記念デザインを施した水筒を作成し、学会員へ配布する。

《現状》

- ①学会員へ水筒デザインを共有→完了
- ②水筒発注代振込・発注→完了
- ③水筒受け取り→完了
- ④学会員へ水筒を配布→未完了

2. 記念誌について

《概要》

→50周年を記念品の1つとして教育学科の歴史や先生方・先輩方のお言葉、現役学生の思いなどを掲載した記念誌を作成し、学会員へ配布する。

《現状》

- ①記念誌の内容の草案作成→完了
- ②記事作成(内容に関しては別資料参照)
- 2-1 書いていただく先生方や卒業生、現役生への連絡・作成→未完了

2-2 50周年の歴史年表、行事紹介などの作成→未完了

③印刷会社の確定・連絡→未完了

④冊子作成代振込・受け取り→未完了

⑤学会員へ配布→未完了

(記念誌草案は別資料参照)

【②今後の活動計画】

《水筒》

年度内に学会員へ水筒の配布を行う。配布方法などについては今後の会議で話し合って決めていく予定。

《記念誌》

年度内に未完了の活動を実施し、冊子の完成・発行・学会員への配布を行う。配布方法などについては今後の会議で話し合って決めていく予定。

(50 周年記念誌 草案)

目次

1. はじめに 50 周年企画実行委員会
【構成・書く内容】(1)
40 周年記念誌参考
 2. 挨拶：50 年目の大切な日を迎えて 教育学科主任 一盛真
【構成・書いてもらう内容】(1)
40 周年記念誌参考
 3. 祝辞：教育学科 50 周年のお祝いと期待 大東文化大学学長 高橋進
【構成・書いてもらう内容】(1)
40 周年記念誌参考
 4. 祝辞：タイトル未定 文学部長 荒井明夫
【構成・書いてもらう内容】(1)
40 周年記念誌参考
-
5. 大東文化大学・教育学科の歴史 ～50 年を振り返って～ 実行委員会
【構成】(11)
2p で 10 年分×5+1p

【書く内容】
10p
・年表作り→10 年ごと
・大学の大きいイベントがあれば、その概要を記載
1p
・着任してからの歴が長い先生による歴史総括・50 周年への思い・教育学科の変化
(先生は仮案)
(教育内容や学生の様子など)
-
6. 教育学会の組織 ～運営委員会、後援団体の歴史・未来～ 代表・OBOG
【構成】(8) (1 団体 4p×4)
・前半 2p
→運営委員会 or 後援団体の歴史(1p) OBOG の思い(1p)
・後半 2p
→現代表の思い(1p) 次世代の思い(1p)

【書いてもらう内容】

《歴史》(写真や年表も使うため、正確な文字数は不明)

その他未定 (運営委員会、各後援団体の人が歴史を調べて作る予定)

《OBOG・現役》(約 1500 文字)

- ・活動内容
- ・概要 (学年・人数)
- ・入ったきっかけ
- ・活動の中で1番思い出に残っていること
- ・やりがい、入って何が身に着いたか、成長したか
- ・苦労したところ
- ・↑それをどう克服したか
- ・団体の魅力
- ・50周年への思い
- ・今後の展望 こういう団体になってほしい

(OBOGの場合 上記+α)

- ・後援団体の活動で、大人になって、社会で活かされたこと

7. 教育学科 “新時代” ～未来への展望～

現役学生・現役専任教員

【構成】(10) (学生：4p 先生：6p)

4p

学生→無所属各学年1人 1p×4

6p

先生→1人 1p×6

※書いていただく先生方は未定、複数の方に相談させていただく形。

【書いてもらう内容 学生版】(約 1500 文字)

→現役生による教育学科への思い

- ・入ったきっかけ
- ・印象に残っている教育学科の活動
- ・教育学科への印象
- ・これからやりたい教育活動
- ・今まで学んできてよかったこと(4年生)など

【書いてもらう内容 先生版】(約 1500 文字)

→先生方の教育学科への思い

- ・昔と今の教育学科の違い
- ・自分が思う教育学科の魅力
- ・今の教育学科の特徴
- ・学生に期待していること
- ・今の学生の特徴
- ・大東文化大学の教育学科で活動していて感じるやりがい
- ・50 周年を迎えての思い

8. 教育学科を見る ～写真での様子紹介～

実行委員会

【構成】(6)

- ・ 5p

→1p が 10 年分×5 時系列順に並べて、卒業アルバム風にする

- ・ 1p

→最新の集合写真や学会活動の様子を載せる

9. 50 周年記念実行委員会総括

実行委員会

【構成】(1)

- ・ 1p

→実行委員メンバーによる総括

【書く内容】

- ・ 今回の記念誌を作った感想
- ・ 50 周年への思い
- ・ 学生として、これからの抱負

(10. 教育学科専任教員リスト 実行委員メンバーリスト) 予定

計 40p + α

令和 5 年度 球技 活動計画

2023 年 8 月 2 日

報告者：後援団体球技 役職 代表 氏名 木村 大樹

【アウトライン】

① 秋季大会予定

② 冬季大会予定

【①秋季大会活動予定について】

開催日時：9 月 24 日（2～4 時間ほど借用予定）

開催場所：緑山キャンパス

〈1 日の流れ〉

開会式

企画 ※企画の時間については、30 分～1 時間を予定

予選

決勝トーナメント

閉会式

種目；タグラグビー

目的；体を動かす機会を設けるとともに、スポーツを通して同学年、他学年との親睦を深める。

【②冬季大会活動予定について】

開催日程：12 月 18 日（2～4 時間ほどの借用）

開催場所：東松山キャンパス（体育館）

（1 日の流れ）

開会式

企画 ※企画の時間については、30 分～1 時間を予定

予選

決勝トーナメント

閉会式

種目：バスケットボール

目的：体を動かす機会を設けるとともに、スポーツを通して同学年、他学年との親睦を深

める。

【昨年度からの改善点】

- ・球技大会に日程の呼びかけを早めに行い、集客率を増やす。
- ・けが人が出てしまった際に、球技委員が瞬時に対応できるような保険マニュアルの見直しと共有。
- ・秋季大会で予想される、参加者への熱中症対策とそれに伴うペットボトル飲料のごみ対策の徹底。

2023 年度 教育学会補助金予算申請案

申請先 教育学会運営委員会

申請日 2023 年 4 月 18 日

申請者 川島沙紀 佐野雄大 印

団体名	教育学科後援団体 球技			
団体責任者	学籍番号	2 1 1 1 4 0 8 1	役職名	代表
	氏名	木村 大樹 印		
会計責任者	学籍番号	2 1 1 1 4 0 4 5 2 1 1 1 4 0 8 5	役職名	会計
	氏名	川島 沙紀 佐野雄大 印		
団体構成	4 年 0 名 3 年 1 0 名 2 年 1 7 名 1 年 1 6 名 合計 4 3 名			
A 案 後援助成金予算案総額 1 6 1 , 4 0 0 円				
補助金使用用途及び申請額				
用途			金額	
企画運営費 ・印刷代 2 円×3,520 枚 =7,040 円 委員用しおり 400 枚 / 委員用ルールプリント 320 枚 参加申込用紙 1,000 枚 / 参加者用しおり 1,500 枚/参加者用アンケート用紙 300 枚 ・緊急車両（レンタカー）/ガソリン代 2 台 20,000 円×2 回=40,000 円 ・ボール代 3,560 円 タグラグビーボール 2 個 ・タグベルト/タグ代 30,000 円 ベルト 40 個/タグ 80 本 ・審判用の旗 10 本 2700 円 ・球技大会企画費 30,000 円 企画 10,000 円 賞説明 10,000 円 ルール説明 10,000 円 ・医療代 3,000 円			小計 7,040 円	
			小計 40,000 円	
			小計 3,560 円	
			小計 30,000 円	
			小計 2700 円	
			小計 30,000 円	

湿布 / 絆創膏 / テーピング／包帯／ガーゼ	<u>小計 3,000 円</u>
・ シミュレーション代（川越総合運動公園予定） 19,500 円 競技場 6,000 円 体育館 13,500 円	<u>小計 19,500 円</u>
・ 文房具代 7,000 円 養生テープ 4 個 / 布テープ 4 個 / 模造 紙 1 個 / 白画用紙 3 個 / 色ペン	<u>小計 7,000 円</u>
・ 参加者景品代、ドリンク代 8,600 円	<u>小計 8,600 円</u>
・ 雑費 10,000 円	<u>小計 10,000 円</u>
	<u>合計 161,400 円</u>

令和5年度 後援団体大合宿 活動計画

2023年8月2日

担当者：後援団体大合宿 代表 潟口宗悟

【アウトライン】

- ①小合宿について
- ②シミュレーションについて
- ③大合宿について

【①小合宿について】

開催日時：8月7日（月）～8日（火）1泊2日

開催場所：福島県西白河郡西郷村真船村媚6-1 国立那須甲子青少年自然の家

企画：1泊2日のレクリエーション合宿

詳細：縦割り班でのレクリエーションや野外炊事等、大合宿で実施予定の催しものを実践し安全確認を行う。

目的：宿泊込みという大合宿に近い環境下でシミュレーションを行い、より参加者の立場立った対策考案や企画考案を行う。
実践を踏まえた企画考案を行うことで、レクリエーションが安全且つ円滑に行えるようにする。
入念な確認を行い、大合宿本番での怪我防止対策や感染症対策をより十分なものにする。

タイムスケジュール

1日目

7:00 高坂発

10:30 施設到着・荷下ろし

10:45～11:00 入村式

11:00～11:45 散策(誘導の立ち位置確認)

11:45～13:45 野外炊飯(カレー)

13:45～16:45 レクリエーション

16:45～17:05 ゆうべの集い

17:05～18:15 レクリエーション

18:15～19:00 食堂で夜ご飯
19:00～20:30 ダンス・キャンプファイヤー練習
20:30～21:45 入浴
21:45 以降、順次就寝

2 日目

6:30～7:20 起床・あさの集い
7:20～8:15 朝食
8:15～9:00 部屋の掃除・荷物移動
9:00～11:45 レクリエーション
11:45～14:15 野外炊事
14:15～16:10 レクリエーション
16:10～16:30 バス出発

【②シミュレーションについて】

開催日時 : 8 月 28 日 (月)

開催場所 : 埼玉県東松山市東平 567-1 北地区体育館

企画 : 大合宿に向けたレクリエーションのシミュレーション

詳細 : 大合宿にて行うレクリエーションの試行

目的 : 実践を踏まえた企画考案を行うことで、レクリエーションが安全且つ円滑に行えるようにする。
入念な確認を行い、大合宿本番での怪我防止対策や感染症対策をより十分なものにする。
来年度以降の活動のために、対面での大合宿が行えなくなった場合でも最低 1 回はシミュレーションを行い、大合宿の雰囲気や流れだけでも新入委員に体験してもらう

【③大合宿について】

開催日時 : 9 月 4 日 (月) ～ 6 日 (水) 2 泊 3 日

開催場所 : 福島県西白河郡西郷村真船村娯 6-1 国立那須甲子青少年自然の家

企画 : 2泊3日のレクリエーション合宿

詳細 : 縦割り班でのレクリエーションや野外炊事、キャンプファイヤー

目的 : 学年や既存の交流の枠を越えた班で企画に参加することで、自主性や協調性を育み、仲を深める。
学年の縦と横の繋がりを増やし、交流を深める機会を設ける。
学びに関連したレクリエーションを取り入れることで、将来社会に出た際に役立つ知識を得る

タイムスケジュール

施設側との協議中

令和5年度 後援団体大合宿 予算申請案

2023年8月2日

報告者：後援団体大合宿 会計 熊田華凜

【変更点】

運転手接待代の用途名称

【変更内容】

運転手接待代について、昨年度の決算報告時に名称の変更を提案していただいたため、用途の名称を変更する。

変更前 運転手接待代

↓

変更後 運転手朝食代

主な使用内容は、運転手の方へ軽食と飲料を購入し、朝のご挨拶時にお渡しすることである。ご提案を参考に、よりふさわしい名称への変更を申請する。

令和 5 年 後援団体コンサート 活動計画

2023 年 8 月 2 日

報告者：後援団体コンサート 代表 筑比地秀斗

【アウトライン】

- ① 第 47 回教育学科コンサートについて
- ② 練習について
- ③ リハーサルについて
- ④ 共催実行委員会について

【①第 47 回教育学科コンサートについて】

企画名：第 47 回教育学科コンサート

開催日時：11 月 11 日（土）

開催時間：10 時～16 時予定

開催場所：大東文化大学東松山校舎 60 周年記念講堂

〈1 日の流れ〉

9:30 開場

9:30～10:00 受付

10:00 開会式

10:30 各団体公演（途中休憩あり）

※各団体 4 分～4 分半の発表

15:30 閉会式

16:00 頃 終了

目的：一人ひとりが音楽に楽しむことで、個々の音楽活動への関心を高める。

音楽授業の成果を発揮する

学会員が主体となって協力し、発表を作り上げる。

学科内でクラス学年を超えた交流を深める。

参加団体：

1 年生・・・各基礎演習（6 団体）

2 年生・・・AB CF DE(3 団体)

3 年生・・・AC BF DE(3 団体)

4 年生・・・AB CF DE(3 団体)

ゼミ (2 団体程度)

有志団体(4 団体程度)

音楽授業(全 5 団体)

【②練習について】

本番に向けた練習場所として以下の期間で教室を開放する。

1. 東松山校舎 音楽室 7041

期間:10/2(月)～11/10(金) ※日曜日・祝日・全校休講日は除く

時間:月～金曜日 18:20～20:30

土曜日 15:00～19:00

2. 板橋校舎 音楽室 10703

期間:10/2(月)～11/10(金) ※日曜日・祝日・全校休講日は除く

時間:月～金曜日 18:20～20:30

土曜日 15:00～19:00

3. 板橋校舎 プレイルーム・保育実習室 10701

期間:10/2(月)～11/10(金) ※日曜日、祝日、全校休講日は除く

時間:月～金曜日 18:20～20:30

土曜日 15:00～19:00

4. 東松山校舎 60 周年記念講堂

期間:10/30(月)～11/10(金) ※日曜日、祝日、全校休講日は除く

時間:月～土曜日 9:00～20:00

※4 については、授業中、休み時間、空き時間、基礎演習時間中などいずれの時間帯での利用も許可する。但し、団体同士での練習場所の重複を避けるために 1～4 の施設を利用する場合はコンサート委員にアポを取ること。

【③リハーサルについて】

本番にて円滑に公演が行われるよう各団体 1～2 回のリハーサルを設ける

期間:10/30(月)～11/10(金)※日曜日、祝日、全校休講日は除く

時間:月～土曜日 9:00～20:00

場所:東松山校舎 60 周年記念講堂

目的:

- ・本番の場所で本番使用する機材等を用いてリハーサルを行うことで、本番での円滑な進行ができるようにする。
- ・コンサート委員との打ち合わせ(音源や照明の確認、舞台演出の打ち合わせなど)を通して、本番の機材トラブルや演出トラブルを防止する。

【④共催実行委員会について】

〈決定事項〉

●スローガン

『個性を魅せろ！ ～オンリーワンのコンサート～』

●審査について

1. 審査基準について

今年度の審査は以下の規準に基づいて行われる

・『企画力』

起承転結、オリジナリティ、メッセージ性をもって企画力とする

・『表現力』

会場を巻き込んで一体感を作って盛り上がっていたか

・『技量』

練習(努力)の成果が発揮されているか

※『企画力』『表現力』『技量』の三観点を基に審査員が点数を付けて評価する。

2. 審査員について

今年度の審査は以下の審査員構成により評価される。

・教員 5 人(基礎演習担当教員を除く)

・学生 15 人(各出演団体から 1 人ずつ)

→1 年生:各クラス 1 人ずつ (計 6 人)、2～4 年:各学年 3 人ずつ(計 9 人)

合計 20 人

3. 賞について

今年度は審査員による審査によって以下の賞が与えられる。

・1 年生部門「にわとり賞・ひよこ賞」

・総合部門「最優秀賞・優秀賞・優良賞」

(1 年生・有志・音楽授業・ゼミは対象から除く)

教育学会学会則

第1章 総則

第1条〈名称〉

本会は、大東文化大学教育学会と称する。

第2条〈本部〉

本会の本部は、東京都板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学教育学科に置く。

第3条〈目的〉

本会は、文学部教授会の承認に基づき、教育学の研究を推進し、あわせて会員相互の交流・提携を計ることを目的とする。

第4条〈事業〉

本会は、会則第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 研究会及び講演会
- 2 学会誌及び機関紙の発行
- 3 その他要請に応じて、本会の目的の達成に必要な事業又はその後援

第5条 後援については、後援規約にこれを定める。

第2章 会員

第6条〈会員構成〉

本会は、次の四類の会員によって構成される。

- 1 [正会員] 本学教育学科在学生
- 2 [PG会員] 本学大学院教育学専攻在学生
(※PG=Post Graduate)
- 3 [特別会員] 本学教育学科専任教員、本学教育学科特任教員
- 4 [協力会員] 本学教育学科担当事務職員

第7条〈会費〉

本会は、会費の納入と返還について次のように定める。なお、その金額は別に定めるものとする。

- 1 正会員及びPG会員は、それぞれの課程への入学時に所定の額を会費として納入する。その際、正会員の会費とPG会員の会費は、それぞれ別途に管理・執行するものとする。
- 2 正会員及びPG会員が所定の在学期間を待たず退学または除籍となったときは、納入した会費の一部の返還を受ける。なお、5月1日において在学する学生は当該学年に1年間在学したものとみなす。
- 3 編入学者は、入学時に納入した額から在学予定期間の会費を控除した額の返還を受ける。

第8条〈会員の権利〉

本会の全ての会員は、本会の事業の運営について発言する権利を有する。但し、正会員以外の各類の会員は、本会の機関決定において決議権をもたない。

第9条〈会員の権利〉

本会の全ての会員は、本会の機関の傍聴権、関係書類の閲覧権及び関係行事への参加権を有する。

第10条〈会員の義務〉

本会の全ての会員は、本会の会則及び総会の決議に服さなければならない。但し、総会の決議内容が教員の

学科協議会の意向と齟齬をきたした場合は、その限りではなく、別途定める調整手続きに委ねられる。

第3章 機関及び役員

第11条 本会は、第3条の趣旨を実現するため、次の機関を置く。

- 1 総会
- 2 運営委員会
- 3 学生・教員連絡会

第12条 本会は、次の役員を置く。

- 1 会長 1名(教育学科主任)
- 2 運営委員長 1名(正会員)
- 3 会計監査員 2名(正会員1名、非正会員1名)

なお、各役員に関する規定の詳細は、第7章の補充規定にこれを定める。

第4章 総会

第13条〈総会の性格〉

総会は本会の正式決議機関である。

第14条〈開催の条件〉

総会は、原則として年度内に一回、定例総会として開催される。また、以下の条件のいずれかを満たした場合には、臨時総会が開催される。

- 1 正会員の1/3以上の要求があった場合
- 2 運営委員会が決議によって開催を求めた場合
- 3 会長が総会開催を必要と認めた場合

なお、総会の開催にあたっては、会長の承認をもとに、運営委員長がこれを召集する。

第15条〈総会出席義務と委任状〉

正会員は、原則として全員が総会に出席するものとし、議事は出席正会員の過半数によって可決するものとする。

第16条〈総会の任務〉

総会は、次の事項を審議・議決する。

- 1 運営委員会役員の承認
- 2 決算報告・予算案の審議と承認
- 3 第4条に基づく諸事業の活動報告と活動計画の審議と承認
- 4 会計監査員(学生・教員ともに)の承認
- 5 会則の改廃
- 6 その他、会長及び運営委員会が認めた必要事項

第17条〈総会の運営〉

総会の運営は、運営委員会の責任によって執り行われる。

第5章 運営委員会

第18条 運営委員会は、第3条・第4条の規定に基づき、本会の年間業務が円滑に進められるよう活動する責任執行機関である。

第19条 運営委員会は、原則として各クラス1名以上の正会員代表によって構成される。但し、事情によって委員の増員を妨げない。

第20条 運営委員会の任期は、総会で承認された第2学年次から2年間とする。任期途中に委員を交代補充する場合は、残任期間をその任期とする。なお、1年

次は準運営委員として活動し、運営委員会において決議権を有する。準運営委員は、各クラスと運営委員会とによって承認されなければならない。また、任期を終えた運営委員は在学中、決議権をもたない参与として運営委員会に協力するものとする。

第 21 条 個別の運営委員が任期中に辞任する場合は、クラスの下承を得た上で運営委員会にその旨を申請し、承認を得なければならない。また、委員を補充する場合には、4 週間以内に同じ選出母体（クラス）より補充するものとする。

第 22 条 個別の運営委員の辞任に際しては、当該クラスに 1 名以上の運営委員が残任していなければならない。

第 23 条 運営委員会の人数構成において、第 4 条に基づく本会の事業執行に支障をきたすと判断されるような事情が生じた場合には、運営委員長は、委員の増員をクラスに要請できる。この要請が行われた際には、4 週間以内に必要人員の更なる補充を行うものとする。

第 24 条 運営委員会は、会務の執行のため、委員の互選により次の常任役員を置く。選出された役員は、総会に報告し承認されなければならない。役員の任期は 1 年とするが、再任を妨げない。

- 1 委員長 1 名
- 2 副委員長 2 名
- 3 書記 2 名
- 4 会計 2 名

第 25 条 運営委員会は、原則として学期中、毎週 1 回開催するものとし、委員長がこれを招集する。

第 26 条 運営委員会の開催にあたり委員が欠席する場合には、委任状をもって出席扱いとすることができる。議事は、出席委員の過半数の賛成をもって可決し、可否同数の場合は委員長の決するところとする。

第 27 条 運営委員会の議事を傍聴する権利は、四類の会員全てに認められる。

第 28 条 書記役員は、次のものを含む本会に関する一切の公的書類の記録・保管・引き継ぎにあたらなければならない。

- 1 会則
- 2 運営委員会その他の会議録
- 3 学会事業に関する活動記録
- 4 公式通信文その他の公的記録

第 29 条 運営委員会役員として不適格と疑われる事態が生じた場合は、正会員の 1/4 以上の署名をもってリコールを申請することができる。この申請は可及的速やかに第 14 条の規定に基づき総会に付され、総会出席者の 2/3 以上の賛成をもってリコールは成立する。リコールが成立した場合は、4 週間以内に改選を実施する。

第 6 章 会計

第 30 条 本会の会計は、会費及び寄付金をもってこれに充てる。

第 31 条 本会の会計の収支決算は会計監査員がこれを監査し、その結果を総会に報告しなければならない。

第 32 条 本会の会計年度は、4 月 1 日より翌年 3 月 31

日までとする。

第 33 条 会計役員は、協力会員（事務職員）の援助を仰ぎつつ、本会に関する一切の会計の出納業務にあたる。また、会計に関する一切の記録の保管に責任をもつ。

第 7 章 補充規定

第 34 条 本会会長は、教育学科主任とする。会長は、通常会務の重要事項について運営委員長から相談をうけ意見を述べるとともに、対外的に本会を代表する。

第 35 条 本会の活動を支援するため、教育学科（教員組織）は、その職務分担の内に、教育学会担当委員を毎年少なくとも 3 名配置する。そのうちの 1 名が、本会の会計監査員を務める。

第 36 条 本会と教育学科との連携・協力を強めるため、教育学会「学生・教員連絡会」を設置し、原則として年度内に 2 回開催するものとする。この連絡会は、教員側担当委員チーフと学生側運営委員長との合意に基づいて共同招集され、会の運営も共同司会によるものとする。招集される出席者は以下のとおりとする。

- 1 正会員（学生） 運営委員、常設後援団体代表、その他必要と認められた団体代表
- 2 特別会員（教員） 学会担当委員
- 3 協力会員（事務職員） 文学部事務室教育学科担当職員

なお、本連絡会を傍聴する権利は、四類の会員全てに認められる。

第 37 条 本会の事業を推進するにあたって、正会員集団（学生側）の意向と特別会員集団（教員側）の意向に齟齬が生じた場合には、上記の「学生・教員連絡会」において調整を図るものとする。なお、調整の結果として合意の得られない事項は、執行を見合わせなければならない。この調整は、合意の得られるまで続行されるものとする。

第 8 章 付則

第 38 条 本会則は

- 昭和 47 年 4 月 1 日 制定
- 昭和 52 年 4 月 1 日 一部制定
- 昭和 53 年 11 月 28 日 全面改正
- 昭和 59 年 4 月 27 日 全面改正
- 平成元年 6 月 21 日 全面改正
- 平成 3 年 11 月 19 日 一部制定及び改正
- 平成 16 年 4 月 28 日 一部改正
- 平成 26 年 5 月 14 日 全面改正
- 平成 30 年 5 月 16 日 一部改正

第 39 条 本会則を改正した場合、改正承認と同時に有効とする。

後援規約

第 1 条

教育学会は、会則第 3 条に定められた目的に該当すると認められる活動に対して、当該団体及び個人の申請により、その活動を後援する。

第2条

後援を申請する団体及び個人（以下申請を認められた団体を後援団体と呼ぶ）は、次の条件を満たしていなければならない。

1. 教育学会員によって構成されている団体及び個人であること。
2. 活動・事実の目的が会則第3条に該当するものであること。
3. 原則として、全会員が参加できる活動事業であること。

第3条

1. 後援団体は、運営委員会で指定する申請期間内に同委員会に申請することを原則とする。申請期間とは、申請用紙を受理する期間であり、後援を承認するか否かの審議は、別日に行うものとする。
2. 上記の申請期間の例外として、活動予定日の30日以前に運営委員会に申請したものに關しては、これを考慮する。

第4条

1. 後援に関する一切の審議事項は、出席委員の過半数の賛成をもって決定する。
2. 運営委員が後援団体に属している場合は、後援承認の審議の議決に関与できない。

第5条

運営委員会は、常に後援団体の活動を把握していなければならない、そのため必要に応じて報告の要請を行う。

第6条

1. 後援団体は、必要に応じて運営委員会の要請を受け、報告を行う。
2. 交付した補助金が本規約第1条に定められた主旨にそって使われているかを確認する。
3. 運営委員会は、後援団体の企画に対する意見を述べることはできない。但し、後援団体の要望があるときは、その限りではない。

第7条

1. 後援団体に対しては運営委員会の規定に基づき補助金を交付する。
2. 補助金を交付される後援団体は、会計責任者を置かななければならない。
3. 補助金を交付される後援団体は、運営委員会に予算案を提出しなければならない。
4. 補助金は、運営委員会の査定により、年間の後援費の中からこれを交付する。

第8条

運営委員会は後援団体の報告を受けた後、その報告に基づいて後援団体の行った活動について意見を述べることができる。

第9条

後援団体は、活動終了後運営委員会の定めた期日までに同委員会に収支決算を含めた活動報告書を提出しなければならない。

〈付則〉

1. 本会則は

昭和53年5月23日 制定

昭和56年5月20日 一部改正

昭和59年4月27日 一部改正

昭和61年4月24日 一部改正

平成元年6月21日 一部改正

平成3年11月19日 一部制定及び改正

平成10年6月1日 一部改正

平成25年5月15日 一部改正

2. 本規約を改正した場合、改正承認と同時に有効とする。

教育学会会費規程

第1条〈趣旨〉

教育学会会則第7条に基づき、会費の金額、納入および返還に関する規程を定める。

第2条〈納入〉

正会員およびPG会員は、入学手続き時に7,000円を会費として納入する。

第3条〈返還〉

会費の返還額は次の通りにする。

1. 学生会員・PG会員が、所定の在学期間を待たず退学または除籍となったときは、当該学生会員が納入した会費の額から次の額の返還を受ける。

	正会員	PG会員
第1学年次(5月1日以降)に退学・除籍	6,000円	4,000円
第2学年次(5月1日以降)に退学・除籍	4,000円	0円
第3学年次(5月1日以降)に退学・除籍	2,000円	
第4学年次(5月1日以降)に退学・除籍	0円	

2. 編入学者は、入学時に納入した額から次の額の返還を受ける。

	正会員
第2学年次に編入	1,000円
第3学年次に編入	3,000円

第4条〈改正〉

この規定の改廃は、学生・教員連絡会の審議を経て、総会にて行う。

〈付則〉

1. 本会則は

平成30年5月16日 制定

2. 本規約を改正した場合、改正承認と同時に有効とする。